

Social

社会

Supply Chain

サプライチェーン

4 社会

【人権】

69

【人材】

76

【サプライチェーン】

125

> 基本的な考え方

126

購買の基本的な考え方

127

購買のグローバルマネジメント

128

購買に関する取り組み

129

物流の基本的な考え方

135

物流のグローバルマネジメント

136

物流に関する取り組み

137

全体に関する取り組み

140

【社会貢献活動】

141

【安全】

149

【品質】

169

基本的な考え方

サプライチェーンのサステナビリティ強化に向けて

環境問題や人権問題に配慮しながら、世界各地のお取引先とサプライチェーンを構築し、その最適化に力を注ぐことは、より良い製品・サービスをお客様に迅速かつ安定的に提供するためにも必要とされています。

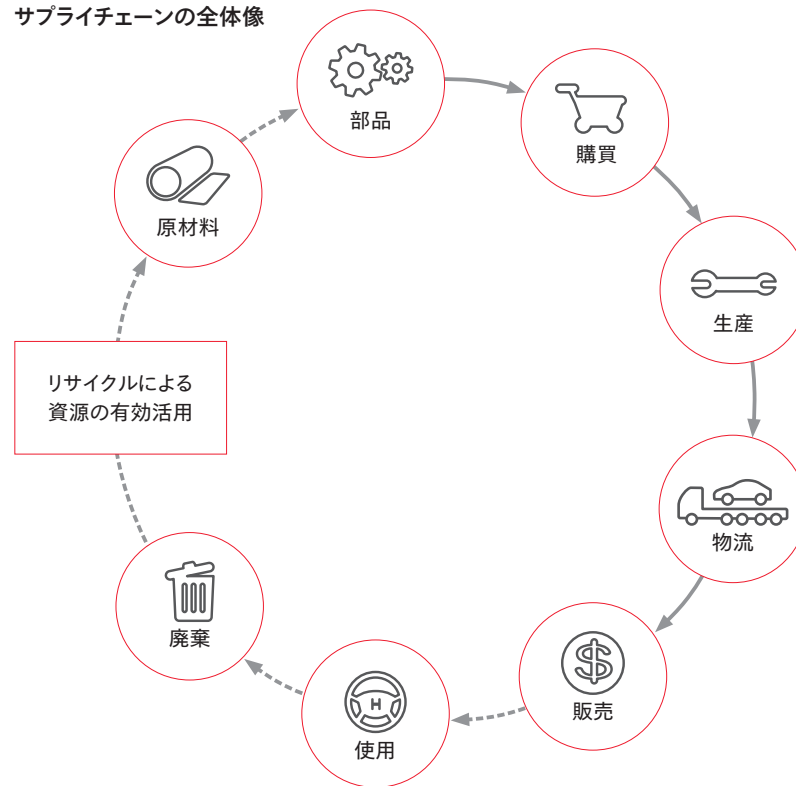
サプライチェーンにおけるサステナビリティ強化は、主に購買領域と物流領域で取り組んでいます。

購買領域においては、サステナビリティ方針を「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」としてサプライヤーと共有し、製品安全・品質、人権・労働、環境、責任ある調達、コンプライアンス、情報開示といった重要課題について、サプライヤーとともに取り組んでいます。

物流領域においても、カーボンニュートラルをめざし、物流の効率化とCO₂排出削減を進めています。また、お取引先と協力し、物流の適正化・生産性向上に向けた取り組みを推進し、サプライチェーン全体での持続的な物流の強化に取り組んでいます。

サプライチェーンにおいては、これらの取り組みについてグローバルで連携しながらサステナビリティの強化を図っています。

サプライチェーンの全体像



4 社会

【人権】

69

【人材】

76

【サプライチェーン】

125

基本的な考え方

126

> 購買の基本的な考え方

127

購買のグローバルマネジメント

128

購買に関する取り組み

129

物流の基本的な考え方

135

物流のグローバルマネジメント

136

物流に関する取り組み

137

全体に関する取り組み

140

【社会貢献活動】

141

【安全】

149

【品質】

169

※ 1

AIAG：Automotive Industry Action Group（全米自動車産業協会）の略。

※ 2

自動車業界のサステナビリティを推進するために新たに発足されたパートナーシップ。

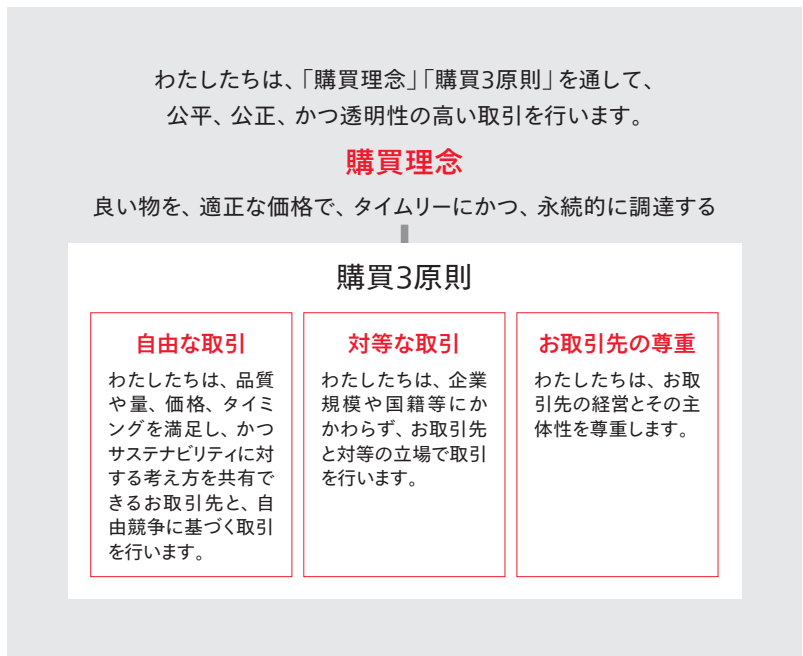
購買の基本的な考え方

購買理念／購買3原則／購買スタッフの心得

Hondaは、世界中すべてのサプライヤーとともに、環境、安全、人権、コンプライアンス、社会的責任などに配慮し、サプライチェーン全体でサステナブルな社会の実現に取り組んでいます。「Hondaフィロソフィー」をベースとして、「購買理念」「購買3原則」を定め、公平、公正、かつ透明性の高い取引を行っています。

また、購買活動を行う従業員一人ひとりが守るべきことを「購買スタッフの心得」としてまとめ、本心得を遵守することで、社内外からの信頼およびサプライヤーとの健全な関係を、より確かなものとしています。

購買理念と購買3原則



4 社会

【人権】…………… 69

【人材】…………… 76

【サプライチェーン】…………… 125

基本的な考え方…………… 126

購買の基本的な考え方…………… 127

> 購買のグローバルマネジメント…………… 128

購買に関する取り組み…………… 129

物流の基本的な考え方…………… 135

物流のグローバルマネジメント…………… 136

物流に関する取り組み…………… 137

全体に関する取り組み…………… 140

【社会貢献活動】…………… 141

【安全】…………… 149

【品質】…………… 169

購買のグローバルマネジメント

推進体制

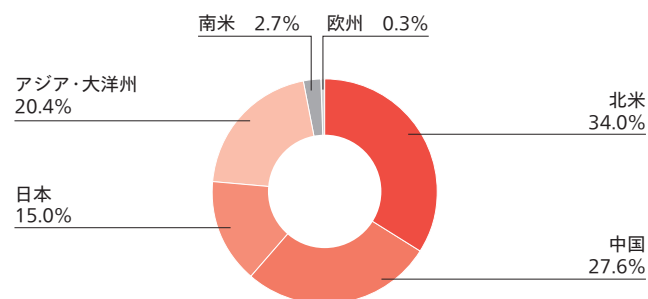
Hondaは、世界6地域で事業を展開しており、それぞれに購買の機能を設け、「需要のあるところで生産する」という会社理念に基づき、各地域での現地調達を推進しています。主要な生産拠点である北米における現地調達率は、主要グローバルモデルで約80%に達しています。

グローバルでの中長期的な方向性について議論・検討し、各地域で連携を強化するため、定期的にマネジメント層による会議を開催しています。

また、グローバルサプライチェーン全体で低炭素化を進めるべく、2011年に「購買環境会議」を立ちあげ、2017年3月期からは人権やコンプライアンスなどに議題を広げ、「購買サステナビリティ会議」へと発展させ、継続的に実施しています。

これらの取り組みを通じて、グローバルで方向性を整合させながら、各地域が連携して活動を推進しています。

地域別の購入額比率（2025年3月期）



推進責任

日本には、サプライチェーン購買本部長（執行役常務）を監督責任者としたグローバル全体の機能を統括する部門を置き、地域・事業を横断的に取りまとめ、サステナビリティ方針や展開目標を企画しています。2016年には、サステナビリティの取り組みを強化・加速するため、専任部署を設置しました。

サプライヤーと協力したサステナビリティの取り組みについては、Hondaの「購買理念」「購買3原則」との整合性を含め、その方針や進捗についてサプライチェーン購買本部長に定期的に報告し、承認を得ています。さらに全社レベルの事業方針やリスクマネジメントに関わる重要事項については、経営会議メンバーへ報告を行っています。

従業員教育研修

Hondaは、購買活動に携わる従業員一人ひとりが、購買理念に則り、公平・公正・かつ透明性の高い取引を推進するために、マニュアルや研修を整備し、OJTを通じた人材育成を推進しています。

日本ではこれらに加え、サプライチェーン領域におけるESGの取り組みへの理解を深めるプログラムをはじめ、QCDDの業務理解を深める研修やeラーニングを整備しています。

さらに、サステナビリティに関する社会動向やサプライヤーとの取り組みについて、定期的に情報発信し、組織全体の意識向上を図っています。社内ニュースを通じて購買部門内で最新情報を共有し、日常業務にサステナビリティ視点を浸透させるとともに、知見の蓄積にもつなげています。

このように、グローバル各地域において、文化的・社会的背景を考慮したプログラムを開発し、購買従業員の能力開発を進めています。また、サプライチェーン全体で持続可能な取り組みを強化するため、サプライヤーとのエンゲージメントにも力を入れ、サプライヤーに対して情報提供や研修機会を積極的に設けています（⇒ p.140）。

4 社会

【人権】

69

【人材】

76

【サプライチェーン】

125

基本的な考え方

126

購買の基本的な考え方

127

購買のグローバルマネジメント

128

> 購買に関する取り組み

129

物流の基本的な考え方

135

物流のグローバルマネジメント

136

物流に関する取り組み

137

全体に関する取り組み

140

【社会貢献活動】

141

【安全】

149

【品質】

169

購買に関する取り組み

サプライヤーの選定

Hondaは、サプライチェーン全体で企業の社会的責任を果たすことが国際的に求められるなか、サステナビリティ方針を直接材・間接材サプライヤーと共有し、事業全体で責任ある調達強化に取り組んでいます。

とくに直接材サプライヤーは、商品の品質や安全性を通じてお客様や事業に大きく影響するため、取引に際しては、各国の競争法や贈収賄防止法などの法令遵守を厳格に求めています。また、安全・防災・環境保全、資源保護への配慮を明記した「部品取引基本契約書」を締結し、取引の透明性と持続可能性を確保しています。

さらに、サステナビリティ推進の一環として、「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」への合意を確認し、製品安全・品質、人権・労働、環境、責任ある調達、コンプライアンス、情報開示といった重要課題について、サプライヤーとともに取り組んでいます。

こうした方針に基づき、部品や原材料の調達先を選定する際には、QCDDEに加え、人権、労働、安全、コンプライアンス、リスク管理、情報保護などへの取り組み状況を確認し、最適なサプライヤーを決定しています。

また、取引後に問題が発生した場合は、サプライヤーからすみやかに報告を受け、原因分析と改善計画の提出を求めたうえで、対応期間を定め、再発防止に取り組めます。

改善計画が不十分と判断した場合には、社会的影響を踏まえ、取引停止を含め将来的な取引継続の可否を検討します。

重要なサプライヤー

サステナビリティ方針に同意し、取引を開始したサプライヤーについては、継続的な取り組みの強化を図るために、取引額、材料・部品の重要性、関連するリスク・課題の状況を総合的に評価し、とくに影響が大きい企業を「重要なサプライヤー」と位置付けています。

この重要なサプライヤーには、購入額8割に相当する一次サプライヤーと一部の二次サプライヤーが含まれ、これらのサプライヤーに対しては、お取引先総会などを通じて定期的にHondaの方針を共有しています。

また、サステナビリティ方針説明会では、一次サプライヤーを対象に、CO₂削減目標やデータ管理・評価システム、資源循環、持続可能な物流、外部機関によるESG体質評価など、HondaのESGに対する方針・取り組み内容について説明し、サプライヤーの理解促進と実践の深化に取り組んでいます（⇒p.140）。



サステナビリティ方針説明会（'24,7）

4 社会

【人権】	69
【人材】	76
【サプライチェーン】	125
基本的な考え方	126
購買の基本的な考え方	127
購買のグローバルマネジメント	128
> 購買に関する取り組み	129
物流の基本的な考え方	135
物流のグローバルマネジメント	136
物流に関する取り組み	137
全体に関する取り組み	140
【社会貢献活動】	141
【安全】	149
【品質】	169

購買に関する取り組み

サプライヤーのモニタリング

ESG 調査

Hondaはグローバル各地域で直接材サプライヤーに対し、「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」の遵守状況などに関する自主点検をお願いし、サステナビリティ対応の実態把握を進めています。

さらに、取引規模などが大きいサプライヤーについては、定期的な点検結果の確認・評価を実施し、問題発生の可能性の高さ、発生した問題に対する自社への影響度合いの大きさから「高リスクサプライヤー」を特定し、改善活動に向けた対応を図っています。

日本においては、過去、購入額の8割以上を占める重要なサプライヤーを対象にHonda独自のESG調査を展開してきましたが、客観性、透明性、網羅性をさらに高めることを目的に、第三者評価機関を活用したサプライヤーESG調査を開始しました。

2024年にはトライアル運用、2026年3月期より本格運用を開始します。さらに、2028年3月期にはグローバルですべての直接材サプライヤーに展開することを目標としています。

第三者評価機関によるサプライヤーESG調査では、以下の項目を実施します。

- 国際標準に基づいたSAQ（自己評価質問票）の実施と専門機関による評価
- 業界ベンチマーク情報および改善項目の提示
- 高リスクと判断したサプライヤーとの改善活動の共同推進

SAQにおいては、環境・労働と人権・倫理・持続可能な資材調達など幅広い評価項目に基づき、サプライヤーの取り組みを確認します。

サプライヤー個社のパフォーマンス評価だけでなく、業界水準とのベンチマーク比較した結果を各サプライヤーにフィードバックし、強み・改善点を明確化します。

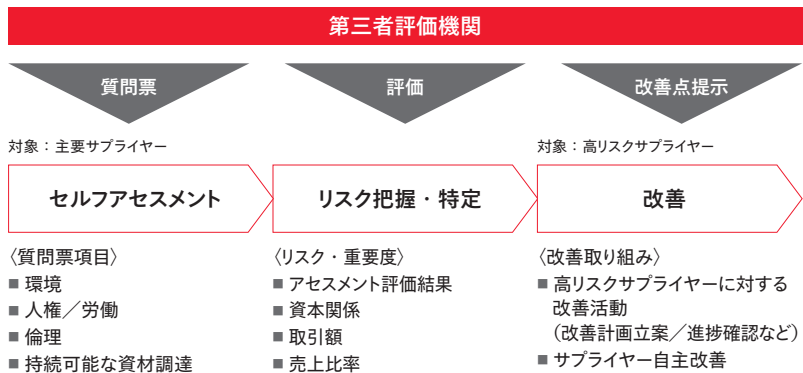
この調査結果をもとにリスクを特定し、その度合いに応じたサプライヤーへのヒアリングや現場確認などを必要に応じて行います。

そして以下の項目を実施・検証し、改善活動のなかで特定された課題については、サプライヤーに対して改善の要請を行い、ともに改善活動を推進します。

- 関連帳票・生産工程・関連施設の確認
- 「改善計画・実績報告書」による進捗確認
- フォローアップ調査（必要に応じて現地確認を実施）

Honda社内においてもサステナビリティに関する力量養成を目的に教育の充実を図りながら、海外の購買拠点とも連携し、サステナビリティ活動をグローバルで展開していきます。

サステナビリティモニタリングフロー



4 社会

【人権】	69
【人材】	76
【サプライチェーン】	125
基本的な考え方	126
購買の基本的な考え方	127
購買のグローバルマネジメント	128
> 購買に関する取り組み	129
物流の基本的な考え方	135
物流のグローバルマネジメント	136
物流に関する取り組み	137
全体に関する取り組み	140
【社会貢献活動】	141
【安全】	149
【品質】	169

購買に関する取り組み

調達リスクへの対策

Hondaは、災害、火災、サプライヤーの財務課題や労働問題・サイバーインシデントなど「生産に影響を与えるすべての事象」をリスクと捉え、部品や材料調達に至るまでのサプライチェーン全体で、その低減と顕在化した際の影響の拡大を未然に防ぐための活動を行っています。例えば、調達先を一つの工場に依存している部品や材料を「課題部品」と定義し、全世界で継続的に点検と対策を実施しています。この取り組みの一環として、2021年から日本国内のサプライヤーを対象に、新たなサプライチェーン（Tier2以下の生産事業所）情報が発生した際にはすみやかに調達リスク管理システムに登録するスキームを確立し、大規模災害発生時、被災地のサプライヤー被災状況と生産への影響有無を短時間で把握できる体制を整えました。また、財務リスクの最小化においては、各サプライヤー調査に基づいた評価を毎年1回実施しています。加えて、第三者機関の情報を参考に、リスク確認を毎月実施しています。

さらに2024年からは包括的なサプライチェーンマッピングツールを導入し、グローバルなサプライチェーンの可視化とリスク管理を強化しています。これはデータマイニング技術を活用し、貿易データおよび所有権情報等から企業間のつながりを抽出してサプライチェーン全体を可視化するものです。さらに可視化したサプライチェーンに各国法規、輸出入規制、制裁リスト情報などの情報を重ねて、サプライチェーン上の潜在的なリスクを検出します。今後、このツールの活用により、リスクのリアルタイム監視、お取引先リスクの評価の強化、リスクの軽減策の策定などの取り組みを進め、サプライチェーン上のリスクの特定とその低減を図っていきます。

4 社会

【人権】..... 69

【人材】..... 76

【サプライチェーン】..... 125

基本的な考え方..... 126

購買の基本的な考え方..... 127

購買のグローバルマネジメント
..... 128

> 購買に関する取り組み..... 129

物流の基本的な考え方..... 135

物流のグローバルマネジメント
..... 136

物流に関する取り組み..... 137

全体に関する取り組み..... 140

【社会貢献活動】..... 141

【安全】..... 149

【品質】..... 169

購買に関する取り組み

環境への取り組み

カーボンニュートラル実現に向けたサプライヤーとの取り組み

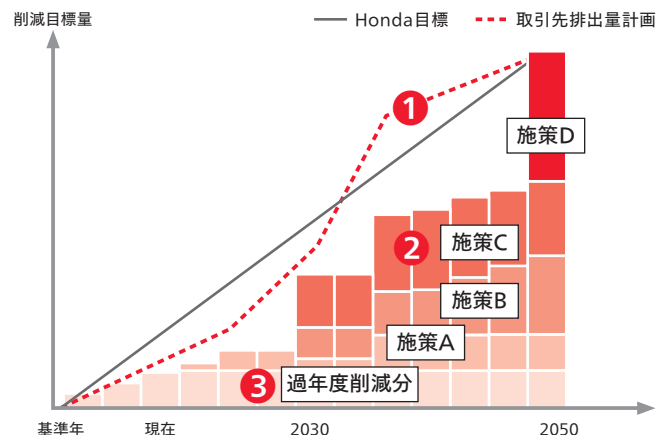
Hondaは2050年にすべての製品と企業活動を通じて、カーボンニュートラル（二酸化炭素排出量実質ゼロ）をめざしています。

日本では、2021年10月にサプライヤーに対し、CO₂排出総量削減に向けた取り組みの検討を依頼、2022年12月には、2050年カーボンニュートラルに向けた具体的な取り組み施策検討に向け、施策観点の共有を実施しました。

取引先CO₂削減展開の見える化システム

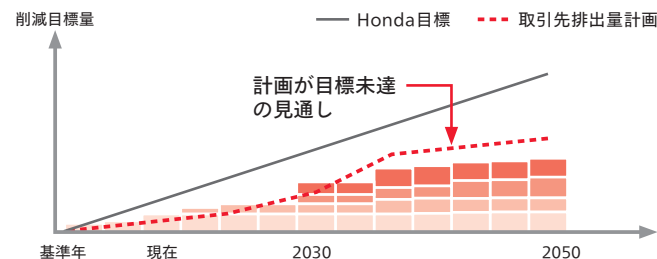
取引先CO₂削減実績・計画の全体把握

- 1 Honda目標と取引先の計画のGAPの見える化ができる
- 2 取引先の削減施策の計画・ステップ・項目が把握できる
- 3 基準年～現在までの過年度の取引先の削減努力が反映できる

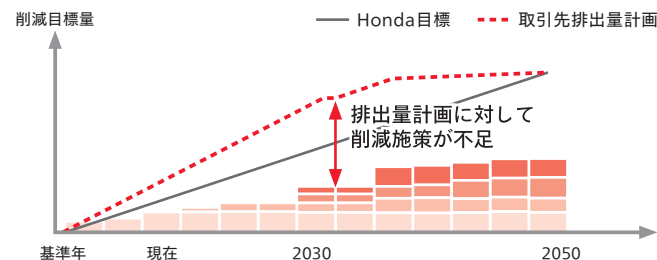


CO₂削減計画（削減量・施策）の具体化促進 ※下記は一例

CO₂削減量が未達の見通し → 削減量の計画見直しを促進



削減施策が不足 → 施策の積み増しを促進



4 社会

【人権】

69

【人材】

76

【サプライチェーン】

125

基本的な考え方

126

購買の基本的な考え方

127

購買のグローバルマネジメント

128

> 購買に関する取り組み

129

物流の基本的な考え方

135

物流のグローバルマネジメント

136

物流に関する取り組み

137

全体に関する取り組み

140

【社会貢献活動】

141

【安全】

149

【品質】

169

購買に関する取り組み

グループサプライヤーとの取り組み

Hondaは、Scope1, 2としてグループサプライヤーのCO₂排出量実績を暦年モニタリングし、2050年のカーボンニュートラル達成を確実なものにすべく、2030年の中間目標を設定するとともに、環境負荷低減活動加速に向けた施策・情報共有会を定期的を実施しています（⇒p.140）。

また、水・廃棄物については、2019年3月期より目標管理に向けた取り組みを開始しており、2025年3月期より目標の範囲を工業用取水・工業系廃棄物に絞り、2031年3月期の目標を定め、データの収集を行っています。

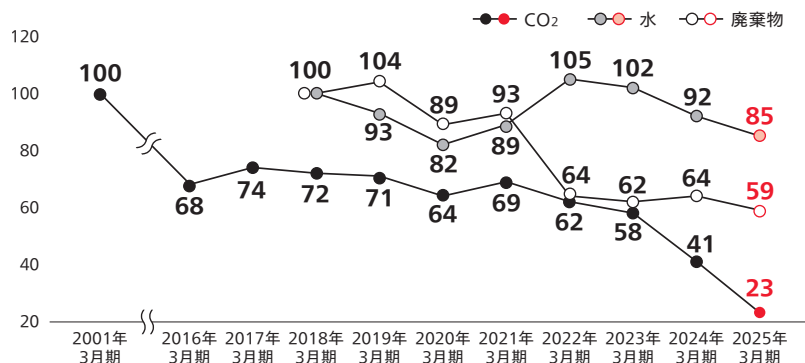
その一環として、グループサプライヤー各社の進捗・実績分析のためのツールを展開し、定期的な施策・情報共有会を通じてエンゲージメントを深め、協働での目標達成に向けてPDCAサイクルを回しています。

化学物質管理

Hondaは、製品を構成するすべての部品などに関する法規遵守と、地球環境や生態系に対する影響の軽減を目的とした「Honda製品化学物質管理基準書」を発行しています。グローバル各地域のサプライヤーに対して、この基準に適合する化学物質管理体制の構築を依頼するとともに、基準を満たした部品の供給について保証をお願いしています。その具体的な含有化学物質データについては、業界標準の管理システムを活用し、量産開始前に評価を実施しています。

環境負荷低減実績

CO₂排出量／水資源使用量／廃棄物等発生量 原単位指数



※ データ対象：日本国内連結対象の一次サプライヤーすべて。

区分	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期
CO ₂ (t/百万円)	0.95	1.03	0.93	0.86	0.62	0.35
水 (m ³ /百万円)	8.19	8.91	10.51	10.16	9.17	8.38
廃棄物 (t/百万円)	0.53	0.55	0.38	0.37	0.38	0.35

4 社会

【人権】	69
【人材】	76
【サプライチェーン】	125
基本的な考え方	126
購買の基本的な考え方	127
購買のグローバルマネジメント	128
> 購買に関する取り組み	129
物流の基本的な考え方	135
物流のグローバルマネジメント	136
物流に関する取り組み	137
全体に関する取り組み	140
【社会貢献活動】	141
【安全】	149
【品質】	169

購買に関する取り組み

人権への取り組み

Hondaは「Honda人権方針」を掲げ、企業活動全体を通じて人権尊重の取り組みを推進しています。その一環として、児童労働・強制労働・人身売買の禁止、生活賃金の保証など、国際的な人権に関する項目を網羅した「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」をサプライヤーと共有し、ESG調査などを通じてその取り組み状況を確認しています。

また、第三者機関を活用したESG調査を通じ、サプライヤーの人権関連の取り組みを詳細に評価しています。この調査では、以下のような項目に基づき、実施状況やエビデンスの確認を行い、リスクの特定と対応策の検討を実施しています。

- 従業員の安全衛生・労働条件（労働時間・健康管理・作業環境の安全性）
- 社会対話・キャリアマネジメント・教育機会の提供
- 児童労働・強制労働・人身売買の禁止
- 多様性・平等性・包括性の確保（D&I施策の実施状況）
- 外部の利害関係者（コミュニティ・お取引先）における人権尊重

加えてデータマイニングによるサプライチェーンマッピングツールを活用し、サプライチェーンにおける人権リスクの特定と低減を図っています。

デュー・ディリジェンスの実施

サステナビリティに関する社会的要請の高まりにともない、環境負荷低減のみならず人権対応を含めたサプライヤーデュー・ディリジェンスの実施が企業に求められ、法制化も進んでいます。

モビリティ分野においても、電動化の進展にともない、バッテリーを中心に環境・人権リスクへの対応が求められ、持続可能な調達の確立が重要な課題となっています。

Hondaはこれらの社会的要請と法規制の動向を踏まえ、社内関連部門および一次サプライヤーとの連携を強化し、サプライチェーン全体の透明性と責任ある調達を推進しています。

これらの取り組みをより実効性のあるものとするため、購買部門が中心となってサプライヤーとともにサプライチェーン上流の環境・人権デュー・ディリジェンスを進めています。

Hondaとしての取り組み → p.74

サプライヤーからの提案・相談受付窓口の設置

「企業倫理改善提案窓口」(→p.200)を設置し、公平かつ中立な立場で、すべてのサプライヤーから提案や相談を受け付けています。

4 社会

【人権】…………… 69

【人材】…………… 76

【サプライチェーン】…………… 125

 基本的な考え方…………… 126

 購買の基本的な考え方…………… 127

 購買のグローバルマネジメント…………… 128

 購買に関する取り組み…………… 129

> 物流の基本的な考え方…………… 135

 物流のグローバルマネジメント…………… 136

 物流に関する取り組み…………… 137

 全体に関する取り組み…………… 140

【社会貢献活動】…………… 141

【安全】…………… 149

【品質】…………… 169

物流の基本的な考え方

Hondaは、持続可能な社会の実現に向けて、物流分野においても積極的な取り組みを進めています。環境負荷の低減と効率化をめざし、以下の3つの柱をビジョンとして掲げ活動を展開しています。

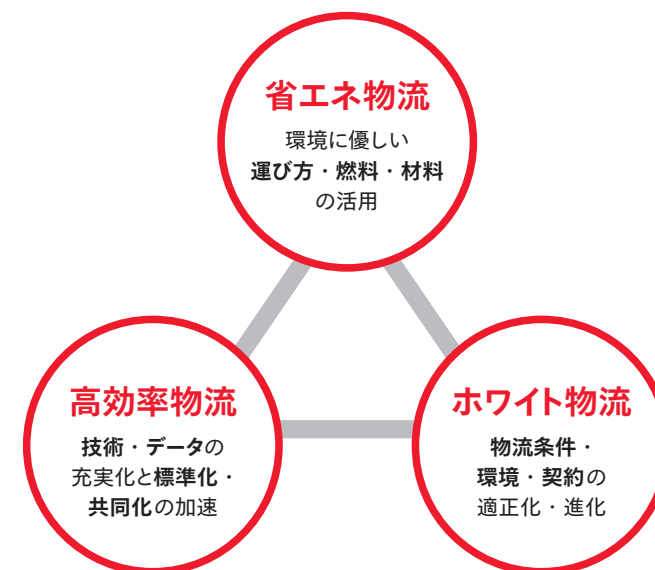
省エネ物流：2050年までにカーボンニュートラル実現をめざします。

高効率物流：物流効率の継続的な向上により、ドライバー不足への対応を図ります。

ホワイト物流：荷主責務を強化し、ドライバーに優しい環境作りに取り組みます。

これら3つの柱は、輸送効率の向上が省エネ物流につながり、また労働環境改善が安定輸送の担保と効率化を支えるという、三位一体の関係にあります。Hondaはこのビジョンのもと、環境負荷低減と物流網の安定・効率化を両立させる持続可能な物流モデルの構築を加速していきます。

Hondaの物流ビジョン



4 社会

【人権】

69

【人材】

76

【サプライチェーン】

125

基本的な考え方

126

購買の基本的な考え方

127

購買のグローバルマネジメント

128

購買に関する取り組み

129

物流の基本的な考え方

135

> 物流のグローバルマネジメント

136

物流に関する取り組み

137

全体に関する取り組み

140

【社会貢献活動】

141

【安全】

149

【品質】

169

物流のグローバルマネジメント

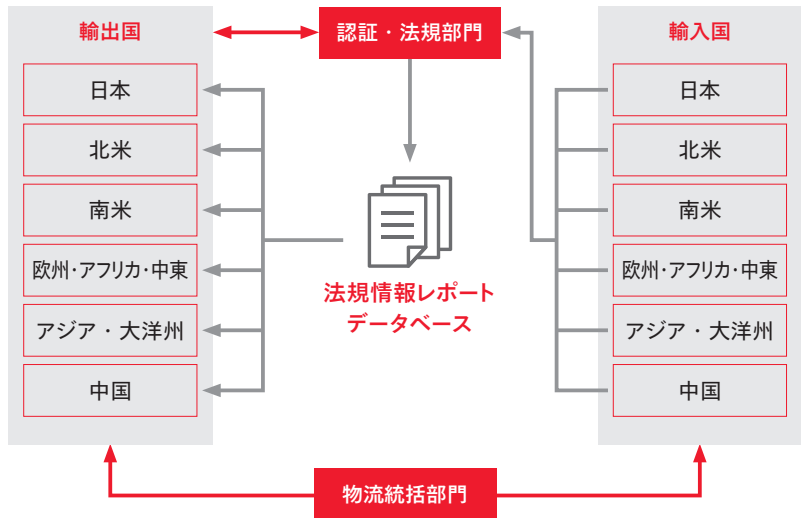
ガバナンス強化の取り組み

Hondaは、各国で異なる物流関連の法規制、および国際関連機関によるルールを遵守しながら、製品や部品を輸送しています。そのためには、グローバル全体でつねに物流法規制などに関する正確な情報を把握する必要がありますと考えています。

具体的には、認証・法規部門と物流部門が連携して、定期的に各国や国際機関の動向を把握し、新たに発布された法規に対してHondaへの影響を判断しています。そのうえで、社内データベースを通じて関連部門にその法規内容の詳細を周知しています。法規の施行前までに海外拠点や物流パートナーと協力して確実に対応策を講じガバナンス維持に努めています。

また、各地域／国で発生する地政学リスク（災害、スト、紛争）や国際情勢（貿易摩擦、外交政策／社内外の荷量変動）を定期的にモニタリングし、グローバルで情報共有を図っています。万が一、リスクが発生、あるいは想定される際にはタイムリーにアラートを発信するとともに、海外各拠点や物流パートナーと協力して速やかに輸送代替ルートを構築する等、リスクの最小化に取り組んでいます。

法規情報の一元管理の仕組み



4 社会

【人権】

69

【人材】

76

【サプライチェーン】

125

基本的な考え方

126

購買の基本的な考え方

127

購買のグローバルマネジメント

128

購買に関する取り組み

129

物流の基本的な考え方

135

物流のグローバルマネジメント

136

> 物流に関する取り組み

137

全体に関する取り組み

140

【社会貢献活動】

141

【安全】

149

【品質】

169

物流に関する取り組み

燃料電池トラック実証実験の進展

Hondaは、カーボンニュートラル社会の実現に向け、燃料電池大型トラックの操作性と商品性を明確にすべく、2024年より燃料電池トラックの実証実験を開始しました。燃料電池はCO₂を排出せず、軽量・コンパクトでありながら、積載量を確保しつつ長距離輸送にも対応できることから、次世代の輸送手段として期待されています。

現在、アメリカや中国での走行実証に加え、日本国内ではいすゞ自動車株式会社との共同開発を進めており、実証実験を通じて技術検証を行い、2027年の市場導入をめざしています。

また、燃料電池技術の実用化を通じ、社会全体でのCO₂排出削減と持続可能なエネルギー利用を促進し、カーボンニュートラル社会への移行を後押ししていきます。



アメリカ商用トラック

2024年内に公道での技術検証を完了し、モニター走行に移行実施



中国の商用車でさまざまな条件下での実証実験
(例：寒冷地実証)

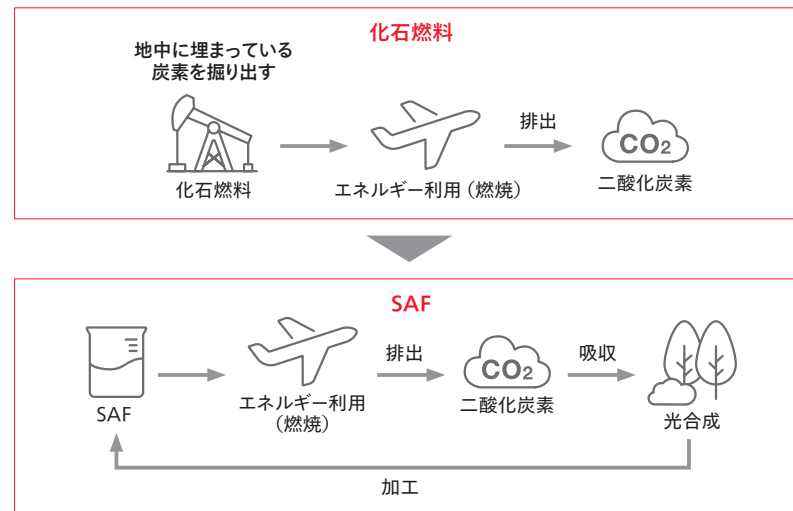


いすゞ自動車株式会社との共同研究モニター車

航空輸送における SAF※の活用促進

Hondaは、東京都の「SAF 活用促進事業」に参画するため、2024 年10月に日本通運株式会社とSAFプログラムの取引基本契約を締結しました。これにより、日本と北米間で20トン相当のCO₂排出削減に寄与しました。

Hondaの日本地域のCO₂総排出量に占める航空輸送の割合15％を削減するため、低炭素で持続可能な輸送燃料手段であるSAFを活用した航空輸送に取り組むことで、CO₂排出削減をめざしています。



※ SAF：Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）。従来の石油精製に代わり、廃食用油やバイオマス等の持続可能な資源から製造されています。

4 社会

【人権】..... 69

【人材】..... 76

【サプライチェーン】..... 125

基本的な考え方..... 126

購買の基本的な考え方..... 127

購買のグローバルマネジメント
..... 128

購買に関する取り組み..... 129

物流の基本的な考え方..... 135

物流のグローバルマネジメント
..... 136

> 物流に関する取り組み..... 137

全体に関する取り組み..... 140

【社会貢献活動】..... 141

【安全】..... 149

【品質】..... 169

物流に関する取り組み

モーダルシフトの拡大

Hondaは、遠距離輸送をともなう部品／完成車を中心に、環境負荷の小さい鉄道輸送や船舶輸送への切り替えによるモーダルシフトを加速させています。

部品輸送においては、昨年から販売を開始した軽商用EV車に搭載されるバッテリー関連部品について、関東地区から中部地区への輸送をトラックから鉄道に切り替えることで、年間約400台のトラック便数削減（14tトラック相当）を図るとともに、▲74.5%のCO₂排出量削減を見込んでいます。

また、専用キャリアカーの輸送能力不足が業界全体の課題となっている



電動車バッテリー関連部品の鉄道輸送



完成車輸送においては、2024年3月より名古屋貨物ターミナル駅から南松本駅間で、初の鉄道輸送を実現しました。これにより、トラック輸送に比べ、年間約30tのCO₂排出量を削減し、ドライバーの長時間労働の回避につながる物流を実現しています。

EV時代の本格的な到来を見据え、Hondaはモーダルシフトの積極的な拡大を含む物流プロセスの最適化を通じて、環境負荷の低減とドライバーの負荷低減を加速させていきます。



コンテナを活用した完成車鉄道輸送



4 社会

【人権】	69
【人材】	76
【サプライチェーン】	125
基本的な考え方	126
購買の基本的な考え方	127
購買のグローバルマネジメント	128
購買に関する取り組み	129
物流の基本的な考え方	135
物流のグローバルマネジメント	136
> 物流に関する取り組み	137
全体に関する取り組み	140
【社会貢献活動】	141
【安全】	149
【品質】	169

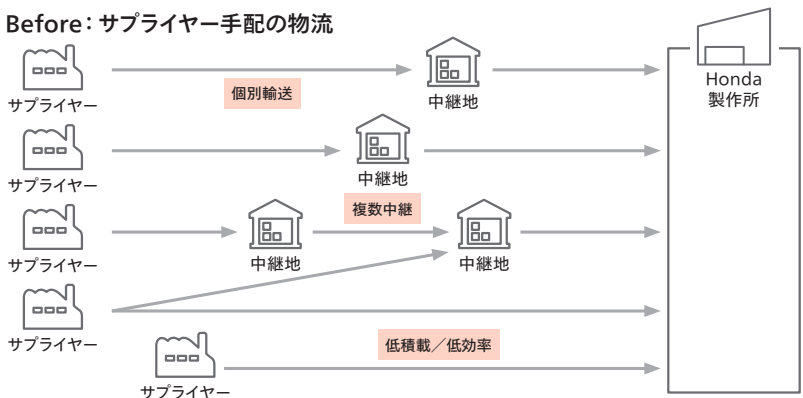
※ ミルクラン：メーカーが必要とする部
品を各工場を巡回して集荷する方式

物流に関する取り組み

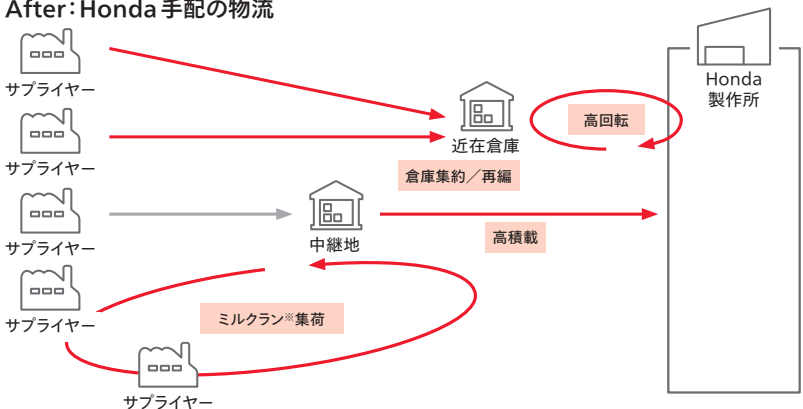
調達物流の“Honda 物流化”の取り組み

Hondaは、サプライヤーからHondaの製作所に納入される部品の物流について、従来のサプライヤー手配からHonda手配への切り替えを進めています。Hondaが自ら荷主として荷量を束ね、全体最適の観点から物流効率化を進めることで、環境負荷の低減と社会問題への対応を加速させます。昨年度は、東北エリアにおいてHonda物流への切り替えを実施し、トラック便数▲19%、CO₂排出量▲24%を実現しました。

Before: サプライヤー手配の物流



After: Honda 手配の物流



【凡例】 → Honda 手配の物流 → サプライヤー手配の物流

物流の適正化・生産性向上に向けた取り組み

Hondaは2019年に「ホワイト物流自主行動宣言」を行い、今日まで継続的に物流の生産性向上に取り組んできました。

2024年問題への対応にあたっては、2023年12月に一般社団法人日本自動車工業会（自工会）より公表された「物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画」に基づき、荷待ち／荷役時間の実態把握、輸送対価と荷役対価の明確化、各物流会社の困り事の聞き取り調査等を実施しました。

また、2024年5月の新物流2法（物流総合効率化法、貨物自動車運送事業法）の公布を踏まえ、法規で要求される社内体制の整備、および、更なる物流の効率化に向けた中期計画の策定に着手しています。

これからもHondaは、関連法規を含めた社会要請に対して、物流パートナー、サプライヤーと連携し、サプライチェーン全体における物流の効率化、更にはドライバーや荷役作業等者の物流関係者が働きやすい環境づくりに全力で取り組んでいきます。

